

和服の柄合わせに関する研究

Study on matching patterns of Kimono

渡部 葉¹

¹大妻女子大学人間文化研究科人間生活科学専攻

Shiori Watanabe¹

¹Studies in Human Life Sciences, Graduate School of Studies in Human Culture, Otsuma women's university
12 Sanban-cho, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan 102-8357

キーワード：柄合わせ，浴衣，着物

Key words : Matching patterns, Yukata, Kimono

抄録

浴衣の製作において初心者が特に苦勞する事として、縫いに入る前段階の「柄合わせや裁断」が挙げられる。布の裁断が速やかにできるように支援するための方法はこれまでもいくつか研究されている。しかし、いずれの方法も実際に講義で使う際などには課題を抱えている点も多く、一般化されていないのが現状である。

そこで本研究では浴衣地として代表的な注染染めの浴衣の反物を取り上げ、初心者が浴衣の柄合わせを行う際の手法を考察する。和裁初心者でも着装時に柄行きの見栄えがよい浴衣を製作することが可能な裁断法を考察することを目的としている。

平成26年度は、先行研究によって明らかになった柄合わせの課題を分析した。そしてその課題を解決するための方法を考察すべく、注染浴衣地の現状調査を行い、加えて反物の状態のビジュアルから着装姿の状態での柄行きをシミュレーションする方法を見出した。

1. はじめに

近年、若者の浴衣への関心は高まってきている。そして、和裁初心者が最初に取り組む作品が浴衣である場合も多い。しかし、浴衣の構造について深く理解していない初心者にとって、反物から浴衣を仕立てることは容易ではない。

浴衣を仕立てるに際して、最初に行われる作業が「柄合わせ」である。浴衣は1つ1つの柄が大きい場合が多い。その為、着装時に同じ柄が並んでしまったり、空白ができてしまったりすることを防ぐために柄合わせを欠かすことはできない。

しかし、和裁初心者にとって柄合わせは直ぐには理解しがたい難しい作業である。この柄合わせの方法がよく分からない故に、反物から浴衣を仕立てることに抵抗を感じる場合が多い。

大学の講義等のように、時間の制約がある場合は、柄合わせについての理解度が十分でない状態でも、やむを得ず反物の裁断に取り掛からねばならない場合がある。結果、裁断に余計な時間がか

かり、その後の作業にスムーズに取り組みなくなってしまうこともある。又は柄合わせに失敗し、自分が初めて仕立てた浴衣にもかかわらず、満足な仕上がりにならなかったために着る機会を失ってしまう、ということになりかねない。

2. 先行研究の課題・本研究の目的

浴衣を仕立てる際に欠かすことの出来ない「柄合わせ」の作業をコンピュータの画面上でシミュレーションするソフト開発の研究¹⁾も過去に行われている。身長や反物の柄行きのデータ、裁断順などを入力することで、反物を裁断する際の適切な順番を導き出す。その結果を参考にしながら実際に反物を裁断することができる。このソフトの利点は、実際に反物を裁断するのでなく、あくまでシミュレーションであるため、何度でもやり直しがきく点である。さらに長い反物を扱わなくても画面上で反物の全体像を見ながら作業をすることができる。柄合わせをシミュレーションするこ

とで、柄合わせについての理解を促し、その後の作業にスムーズに取り組むことができる方法である。

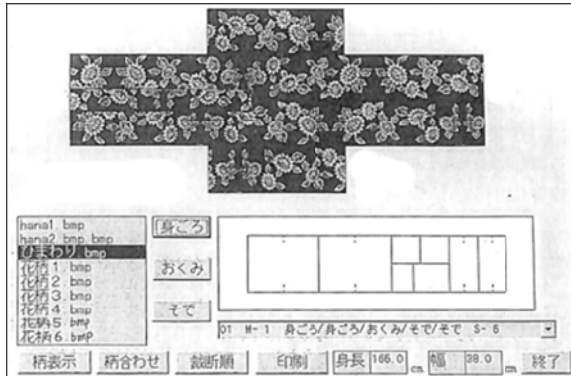


図1. 柄合わせソフト開発の研究

しかし、このソフトには身長160～162.5cmの場合に適応率が低いという課題が残る。この数値は日本人成人女性平均身長に極めて近い数値である。したがって、この身長の場合の柄合わせの方法を確立する必要がある。また、実際の講義等では、このようにソフトを使って柄合わせを試行錯誤する時間的余裕がないことが大半である。

本研究ではこれらの先行研究の課題を解決し、適切な柄行きを得るための柄合わせの方法を考察する。その結果をまとめ、和裁初心者が柄合わせの際に参考となるマニュアルを作成し、その有用性について検証するのが目的である。

3. 方法

先行研究¹⁴⁾は、コンピュータ上に反物を裁断したパーツを平面に並べて柄合わせを検討するものであった。それに対し、本研究では特に“着装時”における美しい柄行きについて考察することにした。

浴衣は反物をほぼ余すところなく使用して仕立てられている。しかし、着装した際には、かなりの面積がおはしりや身頃の重なり等によって見えなくなっている。その事を考慮して柄合わせを考察することで、適切な柄合わせの方法に新たな可能性が見出せないかと考えた。

その為に、反物の画像から着姿の状態での柄行きをシミュレーションする方法を考えた。

加えて、浴衣の反物の現状をつかむ為に、反物の画像を用いて各部分の長さの計測と柄による分類を行った。

3.1. 着姿シミュレーション

まず、白生地で作った浴衣をトルソーに着せ、着装時に身頃の重なりや帯などによって隠れる部分の境目にマークを入れた。次に浴衣をトルソーから脱がし、コンピュータ上に作った浴衣の型紙にマークを反映させ、「柄が見えなくなる部分分かるシート」を作成した。

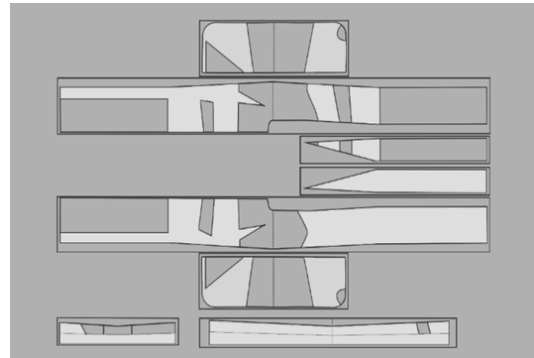


図2. 柄が見えなくなる部分分かるシート

さらにコンピュータ上に浴衣の着姿の雛型を作成し、そこに型を使って切り抜いた各パーツをはめ込んでいく。そのままの状態でははめ込めなため、浴衣を着装した際の皺や歪みを再現するプログラムを制作した。これにより、型で切り出した平面のパーツをひな形の各部位にはめ込むことが可能になった。

以上の操作により、反物の画像から着姿になった時にどのような柄行きになるかがシミュレーションすることができるようになった。

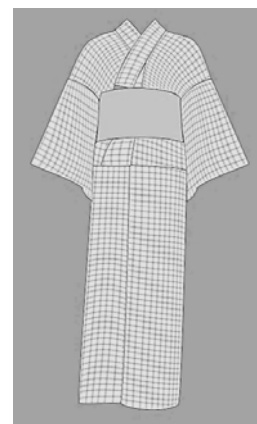


図3. 雛形にパーツをはめ込んだ着姿

3.2. 反物の現状調査

浴衣に使われる反物の代表格である“注染”（ちゅうせん）染めの浴衣地について、現状調査を行っ

た。浴衣の反物を販売しているホームページ^[2]から注染の反物の画像175点を収集して、総丈、幅、柄1単位の長さを計測した。

また、そのうちの162点について、1単位の柄の流れによる分類を行った。まず、1単位中の主たる柄の中央部を線でつなぐ。そして、その軌跡が作る山の数を数えて分類を試みた。

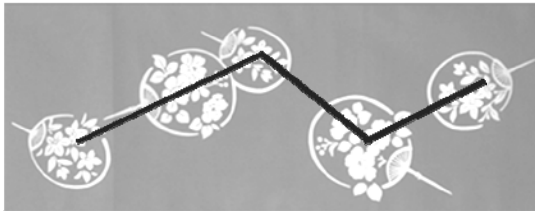


図4. 1単位当たりの柄による分類(2山型)

4. 結果及び考察

試行錯誤の結果、コンピュータ上で着姿のシミュレーションができるようになった。それによって得た見解と先行研究や経験を総合し、着装した時に見栄えの良い柄合わせの定義づけをすることで、着装時に美しい柄合わせを思案できるようになった。



図5. 反物画像から着姿をシミュレーション

画像による柄の分類では、柄1単位の長さは100cm以上が全体の7割を占めていた。また、100cm以上の平均を調べると102cmであった。柄1単位の模様の流れは周期の違う波形を描くものが多い^[3]とされている。本調査でもその傾向が見られ、全体の50%が図4に示すような1単位に山が2回繰り返される2山型とみなせるという結果になった。

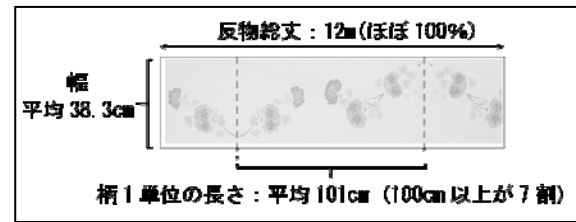


図6. 反物現状調査・測定の結果

5. 終わりに

着装姿のビジュアルをすることで、浴衣の着装時の見栄えについても考察できるようになった。

注染染め反物の現状調査では、反物の総丈は約12mで、柄1単位の長さは100cm以上が7割を占め、1単位の柄行きによる分類では2山型のパターンが多いと判明した。

以上の事から、柄によっては反物を一目見ただけで「裁断・柄合わせの仕方」と「仕立てあがった浴衣の着装時の柄行き」があらかじめ決定・把握できるのではないかと考えられる。

今後はこれらのデータから、柄に対応する裁断と柄合わせの方法を考察する。さらにその結果をまとめてマニュアルを作り、和裁初心者の柄合わせ作業の効率化を図り、実際に効果があるか検証する予定である。

付記

本研究は、大妻女子大学人間生活文化研究所「大学院生研究助成(B)(DB2618)」の助成を受けたものである。

参考文献

- [1] 呑山委佐子ほか. 被服構成学の授業におけるパーソナルコンピューター応用の試み(第2報), 浴衣の柄合わせ. 大妻女大紀要, 家政系Vol.35, 1999, p1-18.
- [2] “浴衣・着物(きもの)の反物・生地通販ショップ 堀田” <http://hotta.shop-pro.jp/> (参照 2015-1-17)
- [3] 川上梅ほか. 中形浴衣地の柄合わせに関する一考察. 相模女大紀要. Vol.45, 1981, p165-171.

Abstract

When production of the *yukata*, beginner has a particularly hard time “pattern arrangement and cutting” of the stage before sewing.

Already, there are some of studies that methods to support it to be able to cutting of the cloth immediately. However, both methods have some problems when it really used by a lecture, and it isn't generalized under the present conditions.

Therefore, I pick up *tyusen-yukatazi* the representative cloth used for a *yukata*, and consider technique when beginners perform the pattern arrangement of the *yukata*.

This study's purpose is consider the cutting method that even *kimono*-dressmaking beginners, they can produce *yukata* has a good appearance at the time of arming.

In 2014, I analyzed a problem of the pattern arrangement that became clear by a precedent study. And I investigated the present conditions of *tyusen-yukatazi* in order to consider a method to solve the problem. In addition, I thought about a method to simulate *yukata*'s look of a design in a state dressed in the arming using a cloth visual.

(受付日 : 2015 年 7 月 5 日, 受理日 : 2015 年 7 月 15 日)

渡部 葉 (わたなべ しおり)

大妻女子大学大学院人間文化研究科人間生活科学専攻生活環境学専修